

## 愛媛県県立学校振興計画「第2回地域説明会(大洲・喜多地区)」での 主な御意見等について

令和4年10月1日～15日において、「愛媛県県立学校振興計画」策定の目的や計画(案)の内容などについて説明する第2回地域説明会を8地区で開催しました。

本地区における主な御意見等については、以下のとおりです。

項目	主な御意見等	県教育委員会の考え方
大洲 農業	大洲高校と大洲農業高校の統合は、他の地区と比べ、準備期間が短いのではないかと。なぜ早くスタートを切らないといけないのか。	統合に際し、 ・新しい学科が設置される学校は令和8年度 ・統合前の学科が引き継がれる学校は令和7年度のスタートを考えています。 一年でも早く、よりよい教育環境を生徒に提供したいと考えています。
	今後、大洲農業高校への志願者が増える可能性もある。生徒募集に取り組むチャンスを与えてほしい。	過去の受験動向や今後の生徒数など、客観的な予測をもとに計画案を策定しています。当地域はもとより南予地域は、今後15年間で4割以上の生徒数減少が見込まれており、当地域の農業教育を維持していくためには、大洲高校との統合は必要な方策であると考えています。
	統合後の農業科や商業科の教育内容は、統合前のままなのか。新しい大洲高校を作っていくには、地域でじっくり議論し、魅力ある姿を考えるべきである。	学科の枠組みは維持しながらも、学科間で職業横断的な学習を展開し、広い視野と知識を備えた人材を育成できる教育を実践していく所存です。なお、具体的な教育課程等の詳細については、来年度設置する準備委員会で産業界や地域の意見もお聞きしながら検討していきます。
	農業教育の維持・発展とあるが、普通科に農業科を統合すると、農業教育が衰退していくのではないかと。単科校として存続させてほしい。	既に以前から普通科と農業科が併置されている野村高校や宇和高校、南宇和高校などで、しっかりとした農業教育が実施されており、統合で教育が衰退することは無いと確信しています。むしろ、これからの社会の在り様や農業経営の将来を考えれば、異なる学科が連携した多様な学びや、分野をまたがる人的ネットワークづくりなどで得られる成果は、生徒たちの大きな財産になり、職業教育の充実につながるものと考えています。
	大洲農業高校の実習は、学校近くの農場で行われているが、統合後は、今と比べて移動時間が増えるのではないかと。	農業関係の授業・実習については、学年ごとに曜日で振り分けて大洲農業高校の施設でまとめて受講できるようにしたり、学校間バスを運行したりするなど、移動時間のロスがないように工夫します。
計画全般	大洲高校の商業科を大洲農業高校に統合し、大洲高校を進学指導に特化した高校にすべきである。	仮に大洲高校の商業科を大洲農業高校に統合し、大洲高校を普通科のみの学校とすると、令和9年度には両校とも3学級規模になると予測されます。この場合、一定規模以上の学校に進

		<p>学したいという生徒の選択肢が本地区からなくなることから、地区外の高校へ進学する生徒がより一層増加することも予想されます。</p> <p>また、入学生が80人以下の状況が3年続くと、その学校は募集停止となることから、最悪の場合には、普通教育を行う学校、職業教育を行う学校ともに、本地区から、なくなる恐れがあります。これらの状況を回避し、魅力的で足腰の強い学校を当地域に残すため、大洲高校と大洲農業高校を統合する案としています。</p>
	<p>30人学級にして、教員を減らさなければ、より充実した教育ができ、教育効果が高まるのではないかと。</p>	<p>1学級の生徒数については、法令で40人を標準とすると定められているので、仮に現在の学級数を維持したまま、35人学級とした場合は年間20億円程度、30人学級とした場合は年間40億円程度の県独自予算が毎年必要となり、県単独での実施は困難です。</p> <p>ただその必要性は認識しており、同じ思いを抱く都道府県と連携しながら、引き続き国に対して、1学級の生徒数の引き下げを要望していきます。</p>
	<p>ルールを変え、高校在学中に、生徒が他学科へ移動することを可能にするなど、思い切ったことをやったらどうか。</p>	<p>専門学科を卒業するためには、原則として、25単位以上の取得が必要になりますので、在学中の学科変更は困難であり、国が定める現行制度下では認められません。</p>
<p>全国募集</p>	<p>「魅力化推進校」の制度について、県は具体的な成果の検証や支援をしているのか。計画書を作成させ、一定の成果があれば認定するなど、意義を明らかにしていくべきである。</p>	<p>魅力化推進校は、島しょ部等交通困難地域の学校のほか、全国募集など明確なビジョンを掲げ活性化に取り組んでいる学校としています。</p> <p>魅力化推進校の基準を適用する学校については、市町等からの支援の下、明確なビジョンを持って生徒募集に取り組み、既に成果をあげています。また、県の支援については、「地域みらい留学」に参画している学校に対し、県外の中学生在が学校見学のために来県する際の交通費の補助や学校見学バスツアーの実施などを行っています。</p>
	<p>愛媛県の税金でなぜ他県の生徒を支援しなければならないのか。どのようなメリットがあるのか。</p>	<p>全国募集は、生徒、学校、地域それぞれに大きな効果があると考えています。具体的には全国から多様な生徒が入学し地域に居住することにより、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県内の生徒にとっては、多様な価値観、広い視野、コミュニケーション力の獲得</li> <li>○学校にとっては、学校行事等の活性化</li> <li>○地域にとっては、地域活動の担い手の増加や地域行事の活性化</li> </ul> <p>等のメリットがあります。</p> <p>また、全国募集で入学してきた県外生徒の中には、高校卒業後、県内に進学した生徒もいるほか、卒業後も愛媛県に何らかの形で関わりたいと考えている生徒も多く、将来的な関係人口の増加や、当該地域を第二の故郷として慕う愛媛ファンづくりにつながるものと考えています。</p>